

### 43. コンピュータ診断を目的とした肝スキャンデータのファイルと統計的処理

金沢大学 核医学科

分校 久志 油野 民雄 利波 紀久

久田 欣一

金沢大学医療技術短期大学部

小島 一彦

2年前より我々は肝スキャンのデータ処理、スキャン返書の合理化を目的に、肝スキャンデータのコード化および核医学外来における肝スキャン返書の80欄のコーディングシート化を行っており、その様式に関してはこれまでに報告してきた。

今回、これまでに診断の確定し得た約700例の肝スキャンデータについて、コンピュータディスクへのファイル化とその統計的処理を行った。使用したコンピュータは金沢大学医療技術短大部に設置されているHP2100(16K)システムであり、各肝スキャンデータは8単位紙テープに変換後、高速紙テープリーダーより入力しコンピュータ・ディスク上にファイルした。ファイルは6項目の個人識別データ、5項目のスキャン識別データ及び35項目のスキャン所見および診断データより成っている。ファイルは QUERY/2100システムにより50項目までのデータ項目の組み合わせで同時検索が可能であり、各データに関し6種、データ間に關して2種の論理結合子が使用可能である。同時に作表プログラム及び統計処理プログラムにより検索データの作表、統計的処理も容易である。このファイルより肝の形態、大きさ、欠損、肝脾R I分布、診断名等のデータ項目を基に所見およびそれらの組み合わせについて検索し、各項目の疾患別出現頻度、疾患分布等(sensitivity, specificity)を算出した。また各疾患におけるスキャン診断の適合率も算出した。さらに現在我々の用いているコーディングシートの問題点についても検討した。

### 44. RABUPORT：電算機による放射線診療レポート作製システム、とくに核医学レポートについて

東京大学分院 放射線科

町田喜久雄 林 三進 亘理 勉

赤池 陽 小山 和行 平川 賢

越ヶ谷市立病院

安河内 浩

核医学診療の効率向上化の目的の一端として、核医学診療レポートを、電子計算機を用いて、作製するシステム RABUPORT (Radiological Bunin Report System)を開発した。

電子計算機は TOSBAC-40 (time sharing system) を用い、通常端末装置にキーマットエディター (DTZ0008 A) を加えて、医師が所見を観察しながら、入力を行うシステムである。

患者名、レポート番号などを入力し、ついで、procedure, interpretation, diagnosis, recommendation の順序に、文章を選び、必要な単語を入力する。最後にプリントの命令を出すと、レポートが自動的に各患者毎に必要枚数ずつ英語で作製されて来る。

また本方法の特長は、文章、単語などのコンピュータへの入れかえをきわめて容易に作ってある点である。これは日常経験を生かして、迅速に核医学の進歩に対応したレポートをつねに作製可能にするために、とくに考慮した。

#### 使用システム

